



1 ねらい

伊能忠敬のはたらきについて調べることを通して、その苦勞と功績について知る。

2 授業の流れ

1 導入・視聴前のポイント (5分)

- ・江戸時代の北海道の地図と現在の地図を比較し、江戸時代には正確な地図がなかったことに気付かせる。(番組シーンの活用)
- ・伊能忠敬が作成した日本地図と現在の地図を示し、伊能忠敬が江戸時代の後半に精密な日本地図を作ったことに気付かせる。(番組シーンの活用)

2 学習課題の提示

「伊能忠敬は、どうして正確な日本地図をつくることができたのだろうか？」

3 番組視聴 ワークシート1 (15分)

- ・「どうして正確な日本地図をつくることができたのか」という点に気を付けさせながら番組を視聴させ、伊能忠敬の思いやはたらきをワークシート1にメモさせる。

4 情報整理 ワークシート2 (15分)

- ・ワークシート1のメモや「ドキリ・ポイント」を手がかりにさせながら、伊能忠敬の取り組みや当時の様子についてワークシート2に整理させる。
- ★時代背景をとらえさせるために、蘭学や当時の様子については、教科書や資料集を活用して整理させる。
- ※ワークシート2は、ペアや小グループ、学級全体で整理するなど、児童の実態に応じて行う。


5 まとめ ワークシート3 (10分)

- ・学習課題について、ワークシート3に自分の考えをまとめさせる。
- ・自分の考えを発表し考えを共有させる。
- ※正確な日本地図をつくることができたのは、天体観測の結果を生かして位置を確かめたことにも気付かせ、蘭学との関わりを理解させる。

3 評価のポイント

- ・技術的な側面だけでなく、西洋の学問の広がり、忠敬自身の熱意、幕府の意図など、歴史的な背景となることから関連づけて説明している。(興味・関心…主にワークシート3)

ワークシート例



いのうただたか
伊能忠敬 ~蘭学の発展~

歴史的に
ドリ
ワークシート

くみ なまえ

学習課題

「伊能忠敬は、どうして正確な日本地図をつくることができたのだろうか？」

1 番組から分かったことをメモしよう。

- ・新しい学問 = 蘭学 ⇒ 50歳で天文学を学ぶ
- ・夢 = 地球の大きさを知りたい!
- ・江戸から北海道までの広いはんにで北極星を観察
- ・幕府 = えぞちの正確な地図がほしい ⇒ 測量の許可

ドリポイント

- ① 忠敬は、全国を歩いて地図作りに取り組んだ
- ② 忠敬の地図が、現在の日本地図の基礎となった

- ・地図作りの幕開け (55歳)
- ・ぼんてん (目印) を立て、歩いて距離を測る・方位磁石・船に乗っての測量 = 精密な地図
⇒ 幕府から全国の地図を作る命令 = 人手が増えてより精密に測量
- ・1818年 73歳で亡くなる
- ⇒ 1821年「大日本沿海輿地全図」完成 = 日本で初めての、歩いて実測した本格的な地図
- ・歩いた道のり=およそ4万km (地球一周と同じ距離)

2 伊能忠敬の行いや当時の様子について整理しよう。

伊能忠敬について

- 50歳: 江戸で天文学を学ぶ
夢=地球の大きさを知りたい
- 55歳: 北海道、蝦夷地の測量開始
ていねいな測量
(旅の合間に地球の外周をおよそ4万kmと導き出す)
- 56歳: 全国の測量開始
- 73歳: 地図の完成を目前に亡くなる
- 1821年「大日本沿海輿地全図」完成
- 歩いた道のりおよそ4万km
=地球一周と同じ距離

幕府の考えや当時の様子について

- ・鎖国中の世の中
新しい学問=蘭学 (西洋の学問)
天文学、測量術、地理学、医学など
- ・幕府=蝦夷地の正確な地図がほしい
(忠敬の地図の精密さにおどろく)
- ⇒全国の測量を幕府の事業とする
- ヨーロッパの新しい知識や技術を日本に役立てようとする人々があらわれてきた

3 伊能忠敬は、どうして正確な日本地図をつくることができたのだろうか。自分の考えをまとめよう。

伊能忠敬は、歩いて本格的な測量を行い、精密な地図を作りました。
このことが幕府に認められ、全国の測量も行いました。
また、北極星を見上げる角度と歩はばで距離を測り、地球の外周を求めました。
このようなことから、伊能忠敬のていねいな仕事をする姿勢や、蘭学で学んだことを生かす力があつたからこそ、正確な日本地図を作ることができたと考えます。

